

釣れ釣れなるままに

2016年思い出の釣行記 PART. 9

新しい竿の使い心地 鹿島釣狂

【苫小牧西港南埠頭・入船埠頭】

7月の大会の折、リュックを担ごうとすると肩掛けバンドが外れてしまった。バンドの根元にある革製の継ぎ目が荷物の重みに耐えられなくなり剥がれてしまったのだ。このリュックは上下二段に分かれていて、下段にはエサやコマセなどを入れた大きめのバックカンがすっぽり納まる使い勝手のいいものだ。リュックの修理を岩見沢市内にある高橋馬具店に依頼したが、年代物なので新規にもう一つ作ってもらうことになった。今まで使っていて改良してもらいたいところを幾つか指摘して自分御用達のものとした。

竿が欲しい。現在釣り大会等で使っているシマノプロサーフは10年以上も前に購入したもののだが、絶版となりサーフランダーとモデルチェンジして販売されている。乱暴な扱い方にも原因があるのだろうが竿にも寿命が来ていたのであろう。最近になってその竿先、先から2番目、元竿と立て続けに折ってしまった。修理してもらうとなると1パーツにつき2万円も掛かるというので、3本の竿をつなぎ合わせながらなんとか2本を維持し、更に古いタイプの北海道仕様ローシートを追加して3本体制としているのだが心許ない。

実はスピンプワーが欲しいのだ。女房には釣りの仲間は「みんな」持っていると言っているのだが、その「みんな」というのは子どもの主張と同じであることに気付いている。一人や二人が持っているだけで「みんな」という表現になってしまうのだ。スピンプワーを目当てに釣具店に行っては打ち拉がれて帰ってきたり、新聞に入ってくる特売広告を穴の開くように眺めていたり、ネットの商品に涎を拭っていたりしていると、息子がパソコン画面を覗きながら「俺が注文してやるか」と楽天市場を検索していった。すると私が考えていたよりも安価でしかも気軽に買えることが分かった。それでもスピンプワーには手が出ないだろうと見詰めていると、定価の25%引きに加えて、ポイントが12,270点付いている。相当な値引き分に当たるはずだ。

こんな機会はないと思い切って息子にスピンプワー・パワーフィッシングCX-T振出を3本頼んでもらった。息子にはポイントの3万某かを使って貰う事にした。そして、郵

便局に走り、現金を息子に渡した。この「ゆうちょ」には、「北海道のつり」原稿の謝金として水交社から毎月振り込まれてくるものを貯め込んでおり、一度も引き出したことはなかったのだ。それがこんな形で生かされようとは思ってもしなかった。まだ高価リール3台分くらいは楽に残っている。

さて、お盆を過ぎて、台風9号、10号、11号と連続して発生した。北海道には11号、9号の順に襲ってきて、羅臼の土砂崩れや常呂川の氾濫を引き起こすなどして甚大な被害が出ていた。小笠原沖で発生した10号の方は、北上せずに南西諸島の方へと迷走していった。

その台風の合間、8月24日は絶好の釣り日和になった。どこへ出掛けようか。河川はもちろんのこと、河口や河口に隣接された港も泥水で釣りにならないだろう。そこでこの時期の釣りものとして、苫小牧西港のアナゴと決定した。浜厚真漁港のクロガシラも魅力的だが、前年度、付近を襲った高波の為、港の中に昆布が流れ込んでいてひどい目になっていたのだ。

午後3時には南埠頭に着いた。サバを狙ったサビキ釣り師がポツポツと釣りあげている中で投げ釣り師の姿も見えたが獲物はなかった。西埠頭に繋がる角は工事中でフェンスが張られていたのでその行き止まりで4本の竿を並べた。暑い陽射しの中で、キラリと光る竿先は微動だにしない。まあ、仕方がないだろう。アナゴは暗くなってからの勝負なのだ。夕闇が迫り、レントゲンカレイに続いて手の平大のクロガシラが釣れた。さあこれからアナゴタイムだと意気込んでいると、「船が入りますから退けてください」と港湾職員が自転車に乗って廻ってきた。

仕方なく竿を片付けて入船埠頭に向かった。暗くなってきているせいか、ここではアナゴ狙いの先客5名が竿を出していた。期待が膨らんだが、誰もが雨続きでようやく見えた晴れ間に、竿を出したというのが実情のようだ。

小ガヤや小ゾイの明確なアタリが続いた後、フワフワとする小さなアタリがあった。食い込むまでと見守ったのだがその内にそのアタリも途絶えてしまった。エサ替えのために竿を上げると鉛筆アナゴがハリスをグルグル巻にしていた。しかし、そこまでだった。初物アナゴは海にお帰り願ひ、この次は、購入したばかりのスピパワーで遠投し、ビールビンほどの太さのあるアナゴを仕留めてやるのだと釣り場を後にした。

【浜厚真漁港】



スピンプワー パワーフィッシング CX-T

注文していたスピンプワーが届いた。箱から丁寧に取り出し、和室の神棚の下に並べて、釣行の安全と釣運をお願いした。そして、リールを装着し錘を付けて、向かいの公園で竿を振ってみた。狭い公園なので3本とも軽く振り込んでから三脚に置いた。それからおもむろにリールを回した。しかし、道糸がピンと張り詰めたにも関わらず錘が寄ってこない。降り続いていた雨で草地がぬかるんでいたもので、鉛が地面にめり込んでしまったのだ。錘を回収すべく竿を軽く煽った。すると道糸が切れてしまった。ナイロン2号だったとはいえ切れてしまうことなど思いもよらなかったが、竿のパワーが今までのものとは違ったのだ。残った2本の錘はめり込んだ錘を引き抜いてからリールを回した。しかし、切れてしまった錘1個が見つからない。隣近所に見られたら恥ずかしいなと思いながらも公園の中をあっちへウロウロこっちへウロウロしながら捜した。ようやく短いナイロン糸を付けた錘を探し当てることが出来た。土の中にめり込んで姿が隠れていたのだ。

フィッシュランドで竿袋を覗いてみた。スピンプワー3本が丁度納まるようなものは置いてなかった。ハードで中古品が置いてあった。これも満足いくものではなかった。今使っている竿袋はリールを付けた竿3本を入れてもまだ余裕があるものだ。これは、大昔

に買ったものがチャック部分が噛み合ってしまったので、友人から譲り受けたものなのだ。高橋馬具店にリュックをオーダーしているので、竿袋もオーダーする事にしよう。スピンプワー3本と、他の竿が3本に三脚が入る巻物をと考えている。

南西諸島の辺りを彷徨っていた台風10号は、ようやくお目覚めして北上し始めている。その台風が来る前の27日も絶好の釣り日和となった。今回はスピンプワーの試し釣りを目的として浜厚真漁港に向かった。

土曜日にも関わらず漁港には釣り人が誰もいない。素潜りでナマコやウニを捕っていた人が防波堤の先端から戻ってきた。彼は海底には魚は泳いでいなかったという。防波堤先端付近には、通過した台風の高波の影響だと思われる枝を張った大きな木が2本漂っていた。それが徐々に港の外に向かって出て行くような素振りを見せているが、念のため先端から少し下がったところに三脚を立てた。

今回のアナゴ釣りにはハリの大きさを一回り小さくした。タラ針7号を6号に、チヌ針6号を5号に、カレイバリ15号を14号にしたのだ。前回はアナゴらしきアタリはあったのだが、小型のものでハリ掛かりさせるまでには至らなかったのだ。

まずはプロサーフCXとスピンプワーCXの2本の竿を比べることと、海底の様子を探るために鉛だけを付けて遠投してみた。目印がないのでどちらが飛んでいるのかははっきりしない。錘は無事に戻ってきたので海底の障害物もなさそうだ。今度は仕掛にイソメを付けて遠投してしばらく置いた。アタリもないので引き上げようとする、スピンプワーの方が根掛かりしてしまった。弾力のあるものなので枝を付けた大木が沈んでいるのだろうか。竿を傷めないように慎重に道糸を切った。その障害物を避けるように再び遠投した。今度はサーフリーダーEXの竿を取りだしてロケットカゴ付きを遠投した。カレイやアナゴ釣りでは竿先が軟らかく敏感でくい込みもよくて重宝しているのだ。その竿が大きく揺れた。アカハラだった。サーフリーダーをもう1本取り出し、今度はスバリで振り込んだがその竿にもアカハラが食い付いてきた。

CXの竿はどちらもエサだけとられて、アタリが分かりづらい。右方向に遠投したスピンプワーに小さなアタリに続いた後、糸ふけが出た。スピンプワーの初獲物は30cm程のクロガシラだった。今度はプロサーフにロケットカゴ付きの仕掛を遠投した。それも根が掛かってしまった。2本のテーパーラインを消耗してしまったので三脚を少し右方向に移動した。

ヘッドランプが必要になり、竿先にケミカルライトを付けた。その竿先がフワフワと動き40cm程のアナゴが釣れた。鉛筆よりはマシとタマネギ袋に入れて先ほど釣れたクロガシラと共にスカリに入れて岸壁の際に吊した。

ハリスがグルグル巻に振れていた。アナゴが食い付いていたが逃げられたのだ。大きなアナゴならそんなことは滅多にないのだが、アタリが出ないような小アナゴを放置しておく、ハリスがグルグル巻きになって返ってくる事になる。今回も釣り上げたアナゴを放っておくとクルクルと身体を捻ってハリスを振り、終いにはハリが動かなくなり、暴れて

いる内に自らハリを外してしまうという離れ業をやったのだ。

その後、ドンコや小アブラコ、小ゾイ、小クロガシラに混じってアナゴが4本になった。どれも小振りではあるが天麩羅には出来るだろうと持ち帰ることにした。タマネギ袋から取りだしビニル袋に入れ替えておいて付近を片付けた。最後に魚を入れたビニル袋をクーラーに入れようとする、アナゴが4本ともビニル袋から飛び出していた。ビニル袋の縛り方が甘かったらしい。再び入れ直して観察すると、軽く縛った所をアナゴの尻尾が探って、その隙間に尻尾を差し入れて器用に抜け出してくる。アナゴは海底に穴を掘って潜んでいるが、その穴を掘るのはその尻尾だということが分かった。

いつもは竿をタオルで拭うのは釣行から帰ってきた後にするのだが、今回は綺麗なタオルを準備していったのでスピンプワーを綺麗に拭った。その後に、プロサーフ、サーフリーダーをついでに拭った。スピンプワーは3本持っていったのだが、いたましくて結局1本だけを使った。

10時に引き上げる予定が日を跨いでしまった。今回の投げ釣り師は、私の後から先端に入った人と二人きりだった。ルアーマンは何人来たのだろうか。20人くらいだろうか。向かいの東港フェンス前はサバ狙いの釣り人が満杯で仕方なくこちらにやって来たという者がほとんどだった。サバばかりではなくフクラギでも釣れてくれればとルアーやワームを飛ばしていたが、魚が掛かった様子はなかった。港の対面にヘッドランプの明かりが見える。3名が入っているようだ。今度はそちらに向かってみようと思う。

今回の釣行はスピンプワーを試してみるという目的の他にもう一つの目的があった。息子の友だちが夕飯を食べに来るというので、一般の人は食べたことがない釣りたてのアナゴをご馳走しようと思ったのだ。アナゴは綺麗に背割りをして天麩羅にした。クロガシラも小さかったけれど刺身にした。彼女から「本当に美味しいです」といわれる度に、釣りの妙味を話して聞かせた。彼女は真剣に聞いてくれたが、息子と女房の方は舌打ちしていたように思う。



本日の釣果

【岩見沢釣遊会第5回大会】

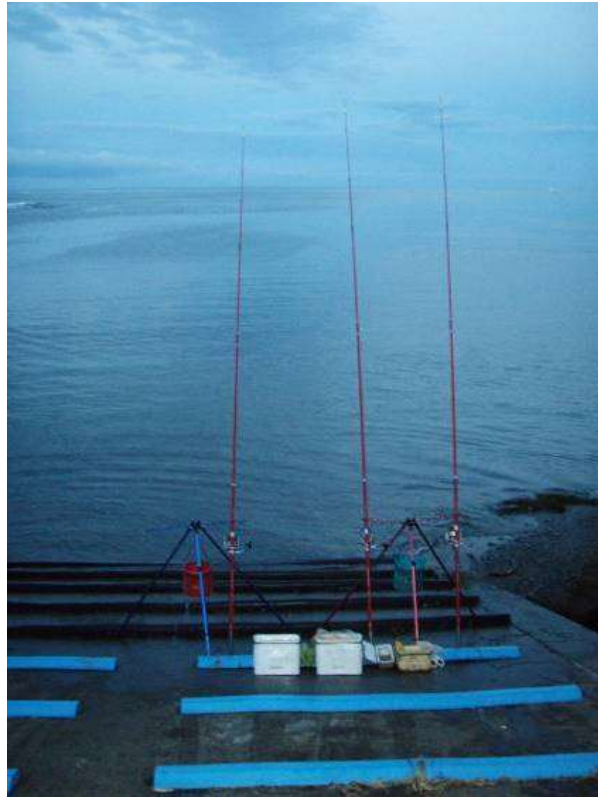
竿を新調するとその竿を持ち歩くためのものが必要になった。振出竿だが仕舞寸法136.5cmとが長いので、今までの竿袋では長さが足りなくて納まらないのだ。テント地で被いくるめるような竿袋をと図に描いて高橋馬具店に作製してもらうことにした。しかし、大会には間には合わない。釣具店に行くと「シマノネクサスハイパーフィッシング ギア」という製品が並べてあり、「ユーズド」9,000円と値札に書かれてあったのでそれを購入した。なんだか持ち重りがするので、「ダイワネオショルダーベルト」を注文しておいた。

9月25日、釣遊会第5回大会が浦河港～エリモ港で開催された。天気は波が1.5mで風も穏やかで、明け方からは陽射しが強く汗ばむような陽気になった。この時期は釣りもののない時期なので、まずはエリモ港でアカハラをとってから、夕日ヶ丘の方に根モノを狙って移動することにした。

エリモ港で下ろしてもらって港内に行くと、釣り人がいた。札幌医釣会の鈴木恵一氏だった。今回は石山フィッシングクラブの大会に乗せてもらったということだ。そして、アタリに合わせて静かに魚をあげている。2魚種でなく、2匹身長+5匹重量なのでアカハラだけで上位入賞を目論んでいるようだ。前回7月の医釣会大会ではアカハラだけで優勝したということだ。

私のアカハラ仕掛に10号鉛とゴロを付けて振り込んだ。そして、タカノハでも釣れればとコマセカゴ付きを遠投した。1時間ほどで35cm程のアカハラを4匹釣ったので、早々に移動することにした。まずは、夕日ヶ丘第1の舟揚場に竿をセットした。狭い縦溝が入っていて、タカノハやクロガシラが出ると紹介された場所だ。しかし、非常に浅い。砂地ばかりなのか根掛かりするようなこともなく、アカハラばかりが釣れてくる。溝を探ってみるのだが、砂に埋まってしまったようだ。ようやく25cm程のハゴトコが来たところで諦めがついた。

夕日ヶ丘から数えて4番目の舟揚場に移動した。明るくなってきたので根がくっきりと見える。最後までここで頑張るしかないなと腹を決めてしまうと、その後は落ち着いて釣りに専念することが出来た。しかし、根の周辺を狙って何度も打ち返すのだが、最後まで大物のアタリは出なかった。



最初に入った舟揚場



次に入った舟揚場



左から身長賞：片岡 浩、準優勝：西脇 浩、総合優勝：矢根政仁、3位：湯浅伸一

優勝は、平宇に入った矢根政仁氏で35cm以上のタカノハを4枚揃え最身長は42.5cmだった。狙いとする場所には先客が竿を出しており、その先客から離れて竿を出した。それが幸いしたのかネット仕掛の中投げ箇所が丁度、かけ上がりになっており、そこがタカノハの居着いた場所だった。

身長優勝は片岡 浩氏だった。西脇氏、山田氏とともに幌島に入ったが、夏枯れがいまだに残る温かい海から42.5cmのビッグなカジカを引き抜いたのだ。その右に並んだ西脇氏も大物カジカを3本引き抜き準優勝に輝いた。3位の湯浅氏は、様似港の端から端へと何度も移動しながら粘り強く打ち続けてこの限界では大物になるアカハラにソイを揃えてきたのだ。私は、なんとか5位にくい込むことが出来た。